

会 議 録

会 議 の 名 称		第1回川島町一般廃棄物処理施設建設候補地検討委員会
開 催 日 時		令和3年11月17日(水) 午前9時30分から11時45分まで
開 催 場 所		川島町役場2階 中会議室
議 題		建設候補地の選定手順(案)について 評価項目及び評価基準(案)について
公開・非公開の別		公開(傍聴者なし)
出席者	委 員	荒井喜久雄、川寄幹生、後藤真太郎、鈴木貞美、木村敏光、 田中雄輝、増村順子、矢田堀実香、小高春雄、石島一久
	事務局職員	町民生活課 横山雅則、渡辺英夫、井上靖夫、北原崇行 パンフィックコンサルタンツ株式会社 米田理津子、宇田川学
配 布 資 料		第1回川島町一般廃棄物処理施設建設候補地検討委員会会議次第 川島町一般廃棄物処理施設建設候補地検討委員会 名簿 川島町一般廃棄物処理施設建設候補地検討委員会設置要綱 川島町一般廃棄物処理施設建設候補地検討委員会 第1回委員会 資料 評価項目(事務局試案) 川島町一般廃棄物処理施設整備に関する建設用地検討報告書
<p>1. 開会</p> <p>2. 委員委嘱 町長より検討委員に委嘱状を交付した。</p> <p>3. 町長挨拶 川島町内のごみ処理施設の老朽化が進んでいる。一方、埼玉中部資源循環組合の解散に伴い、新施設の整備が行き詰まっている。町として町内に用地を確保し新施設の整備を進める意向である。そのため、本委員会は非常に重要な役割を担っている。良い施設づくりに繋がるようしっかりと検討していただきたい。</p> <p>4. 委員長、副委員長の選出 互選により委員長に荒井喜久雄委員を、副委員長に後藤真太郎委員を選出した。</p> <p>5. 委員長、副委員長挨拶 委員長及び副委員長から就任の挨拶をいただいた。</p> <p>6. 委員・事務局自己紹介 委員・事務局がそれぞれ自己紹介を行った。</p> <p>7. 議事公開について 会議録は、要点録とすることとした。</p>		

議事は原則公開とするが、建設候補地選定に係る秘匿性の高い情報を取り扱う場合には非公開とすることがあるものとし、会議の公開／非公開については、その都度判断することとした。

議事要旨・会議資料の公表・その時期については、事務局にて考え方を整理し、次回検討委員会にて報告することとした。

8. 報告事項

(1) 建設候補地検討の基本的な考え方について

町内にある環境センターの主要な施設の概要、埼玉中部資源循環組合への加入と同組合の解散を踏まえ、町役場内に「川島町一般廃棄物処理施設整備に関する建設用地庁内検討委員会」（以下、「庁内検討委員会」という。）を立ち上げ、一般廃棄物処理施設用地の選定を開始した経緯を事務局から説明した。庁内検討委員会での検討成果を踏まえ、町として基本方針（①安定したごみ処理の確保、②環境への配慮、③経済性の確保、④地域の活性化、⑤透明性の確保）を定め、建設候補地を選定していく意向であることを合わせて説明した。

また、本検討委員会のスケジュールを説明し、年度内に本検討委員会としての報告をとりまとめることを確認した。

(2) 庁内検討委員会報告の概要について

庁内検討委員会報告の概要について、検討項目、検討結果（町内に建設候補地9か所を抽出）、今後行う建設候補地の評価の検討について、事務局より説明した。

9. 議事

(1) 建設候補地の選定手順（案）について

建設候補地の選定手順（案）について、事務局より説明し、事務局提案の手順のとおり進めることとした。

候補地の面積については、他団体の事例を参考に、5～6ha程度を確保することを目安とした。建設候補地の加除については、検討スケジュールを考慮し、メ切を設けることとした。「最終候補地の選定（上位1か所＋次点2か所）」とあるが、最終候補地のか所数、その順位付けについては、候補地の評価が進んだ段階で改めて議論することとした。

<質疑・意見等>

- ・整備する施設の種類は何か。
 - ⇒ 他団体との広域処理も考えており、現時点では定まっていない。
- ・候補地を選定するに当たり、一定の面積が条件として必要になるが、如何か。
 - ⇒ どのような施設にするのかが決まっていないので、現時点では必要面積を明確にできていないが、候補地選定に当たっては、埼玉中部資源循環組合では約5ha、上尾・伊奈では約6haとしているので、その辺りが目安になると考えた。
- ・他団体との広域処理を前提としているのか。
 - ⇒ 隣接する2団体と勉強会は行っているが、結論は出ていない。処理方式や事業方式も決まっていない。
 - ⇒ 用地が決まらなると先に進まない。町としてまず用地を確保することを最優先としているという理解でよいと思う。
- ・建設候補地を加除するに当たり、所属する団体に意見を求めることになるが、庁内検討委員会報告を公開することになるが、その是非は如何か。
 - ⇒ 町議会にはすでに報告済みであり、本件について特別委員会も組織されている。そこから何らかの意見をいただくことになると思われる。
 - ⇒ その他の団体についてはどうか。
 - ⇒ 議論の透明性を確保するのは重要だが、一方で選定過程の情報が外部に洩れると、

議論が迷走しかねない。慎重な対応が必要である。

⇒ 事務局として、情報公開の考え方を整理してほしい。

・基本的な考え方で紹介された5つの基本方針は、いずれも同列か。

⇒ 評価項目の重み付けと関連するため、本検討委員会で議論していただきたい。

・パブリックコメントは実施しないのか。

⇒ 他団体では、評価項目・基準を定めた時点でパブリックコメントを求めた事例はあるが、選定結果そのものが対象になったことはほとんどない。今回、スケジュール上の制約からパブリックコメントを求めることは難しいと考えている。

・「最終候補地の選定（上位1か所+次点2か所）」とした意図はなにか。

⇒ 今回の検討委員会のスケジュールでは、地元の理解度・受容というところまで把握することは難しい。検討委員会では上位3か所程度に絞り込み、町で意思決定することを想定した。

⇒ 他団体でも複数の候補地を選んで、首長が意思決定するのはよくあることである。

(2) 評価項目及び評価基準（案）について

評価項目、評価基準、評価の仕方について、事務局の考え方を説明し、評価項目の事務局案を示した。次回検討委員会で評価基準等を示し、議論を深めていくこととした。

<質疑・意見等>

・カルテ形式で整理とあるのはどういうことか。

⇒ 建設候補地毎に、候補地の位置図、航空写真、評価項目ごとに評価結果を記載し、その根拠をわかりやすく示したA3判程度の表を作成することを想定している。

以上

署

名

川 寄 幹 生

鈴 未 貞 美